



# 倉田小だより 5月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～

## 命を守ること、毎日を大切に生きること

校長 丹羽 多香

担任していた児童のなかに、1年前におきた東日本大震災について卒業文集に書いた児童がこんな記述を残していました。

「こわい。助けて!」「お母さん、泣かないで。」

迎えにきた母親が泣いている姿を見て、自分の命や家族の存在について、その大切さを改めて感じたことが、6年生らしい表現で記されていました。

当時、私は5年生の学級担任で、帰りの会の指導中でした。ぐらっと揺れた瞬間、子どもたちは、一斉に身をひるがえして机の下に避難しました。3階の教室では、永遠に感じるほどの長い揺れが続きました。耐えきれなくなった児童が泣き始め、「大丈夫だから。」「もうすぐおさまるからがんばれ!」と励ましあいながら地震の収束を待つ子どもたちは、恐怖と不安でいっぱいの表情でした。

4月中旬に長野県では、震度3以上の地震が1週間で6回も発生しました。4月20日には、青森県で震度5強の地震が発生し、翌日は同県88校の学校が休校となりました。東日本大震災を思い出し、津波や余震の恐怖と闘いながら時間を過ごしたのではないかと思います。

さて、倉田小学校では、4月17日(金)に今年度最初の避難訓練を行いました。地震がおき、その後、理科室から火災が発生したという設定でした。校舎に緊急警報が鳴り響き、ヘルメットを被った子どもたちは緊張した様子で校庭に避難しました。1年生にとっては、初めての避難訓練でした。訓練後に、世界中でなによりも大切なものは、命だということ、そして、その大切な命は、あなた自身が守るのだということ、命を守るための大切な4つの約束が

※「おかしも」の合言葉だということを話しました。どの子どもたちも真剣な表情で、うなずきながら話を聞いていました。

日本は地震大国といわれるように、常に大きな震災と背中合わせです。地震が起きたとき、命を守る正しい行動をとるためには、継続的な訓練と、その都度自分で考えて判断し行動する力が大切です。

東日本大震災が起きた当時、担任していた子どもたちは、一人残らず全員が素早く机の下に潜り、頭部を守る姿勢をとりました。不安な気持ちをおさえて、互いに声をかけ合い、指示をしっかりと聞いて黙々と校庭に避難をしました。誰か一人でも、取り乱したり他人を押しのかけて避難しようとしたりする人がいたら、命を失った人がいたかもしれません。日頃の訓練の大切さを身に沁みて感じました。

卒業文集の最後に、児童は、こんなことを伝えています。

電気やガス、水道が使えること、家族が共に過ごすことは、当たり前のことではない。ありがたいことなのだ。と…。

実は、私たちの日常は、努力があつてようやく手に入れることができるものです。本当は、ありがたい(有難い)ことなのです。毎日を大切に、日々、やるべきことに手を抜かず、一日一日を過ごしていきたいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、登下校をはじめ学校外でも子どもたちが安心して過ごすことができるように見守っていただき、感謝しております。引き続き安全な環境づくりに力を貸していただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

※「おかしも」とは、おさない・かけない・しゃべらない・もどらないの頭文字をとった避難のための合言葉です。